

安南の女傑月蘭

物讀別特
（四）
志士月光尼

それは安南の季節風が明け
葉陰を逃つて綠寶尼院に行く
三月の中旬、マングープーの行
葉陰を逃つて綠寶尼院に行く
若い女がある。二人の侍女は、
從へて、石段を半ば行つたと
ころで一休して後を振り返つ
た。それは間違ひなく、月蘭
の失せた蒼白い顔は驚くほど
變つてゐた。二人の侍女は、
四方を見廻す瘦せ細つた月蘭
の姿を伏せがちに見えて、何時
か兩眼に涙を浮べてゐた。
「もうお前達ともこれでお
別れだね。よく父上に仕へ
て幸福をお暮し……」

以前の月蘭とも思はれぬ弱
々しいその言葉である。

「お嬢さま！ わたしたく達二

人は何處までもあなた様の
お側にある覺悟でございま
す。どうかお連れ下さいま
せ！」

侍女の二人は吸り泣いてゐた
「まだそのやうなことをい
てわたしを困らせる。わたく
しは一人でゐたいのぢや」

涼しい高丘の風が一瞬光の
中から吹き渡つて來た。と、
懐しい白馬が東の間道から二
人の男を乗せて走つて來た。
それを見詰めた。何か自分へ
の用事であるに相違ないと直
ぐ感付いた。(もしや、悲し
い別れをした劉水福が自分を
想像して、まだ泣きぬけ
に來たのではないか)と、月蘭は思はず眼を閉じて、
弱った体にもホーと血潮の温
いほどりを感じずにはゐられ
なかつた。

劉水福は敗戦に次ぐ敗戦、
それに仇敵清帝軍の援助によ
つて外敵佛國軍と戰つてゐる
裡に、佛國は完全に安南を掠
奪してしまひ、最早や彼のな
すべき仕事がなくなつた。こ
のとき奔呑と彼は清朝の道學
派に就いてもつと学び、より
願望に燃え立つた。から思ひ
立つと一刻も早く安南を旅立
ち北京へと向はふとしたので
あるが、こゝに一つの問題は
月蘭が如何しても安南に止ま
つて、安南の再舉を計つて呉
れよ歎願されたことであつた
しかし、劉水福はそれよりも
清朝へ歸服して、仕官をする
方が遙かに魅力であった。
これがため月蘭はすつかり

組合情報

アエノス花卉産業組合報告

【220】

九月廿七日

組合情報
結婚式三度
ドクトル ローベルス

午後二時より五時まで

(土曜日を除く)

チヤルカス街二九二二階

午後二時より五時まで

(土曜日を除く)

チヤルカス街二九二二階</p